

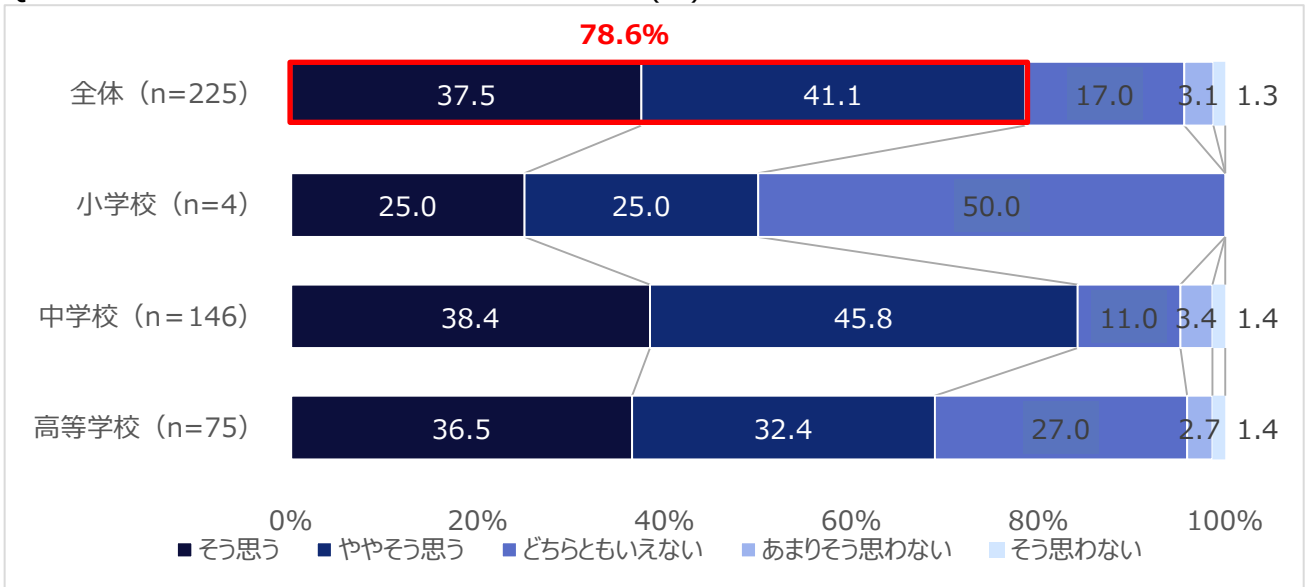
【参考資料】

調査概要

回答方法	「中学生・高校生のためのコンタクトレンズガイド」申込時の記入式による調査
回答者数	養護教諭 225 名
回答者の学校種別	・小学校（小中一貫校、小中高一貫校含む） ・中学校 ・高等学校（定時制、高等専門学校、中高一貫校含む）
回答期間	2017 年 7～8 月

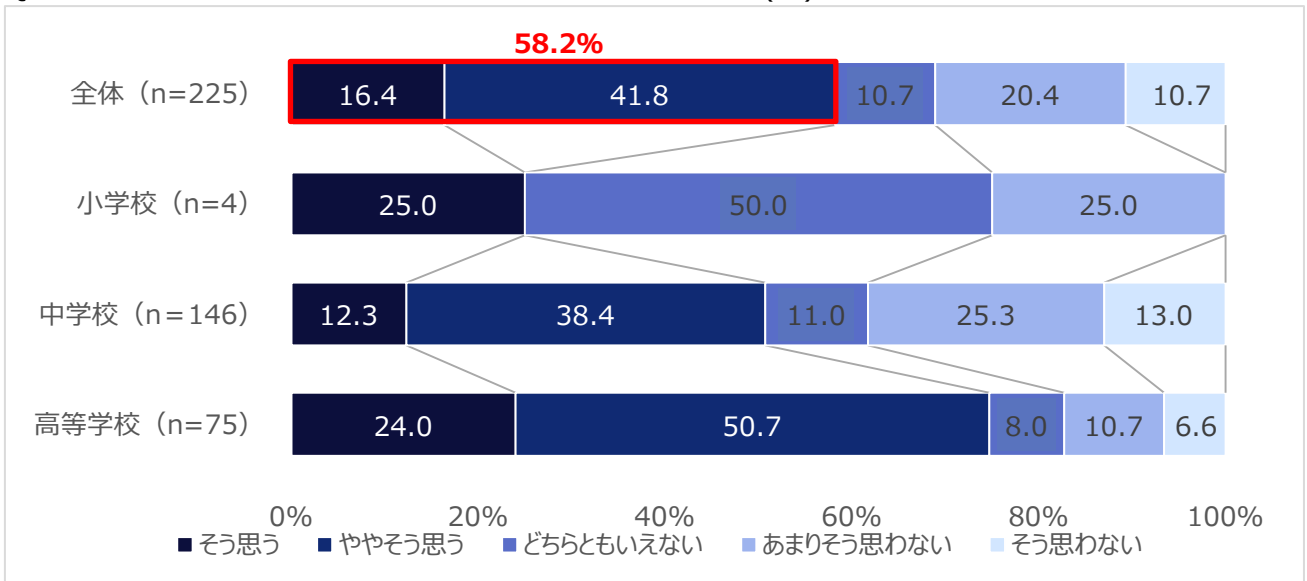
【グラフ 1】

Q. 生徒のコンタクトレンズ装用開始時期が早まっている。(%)



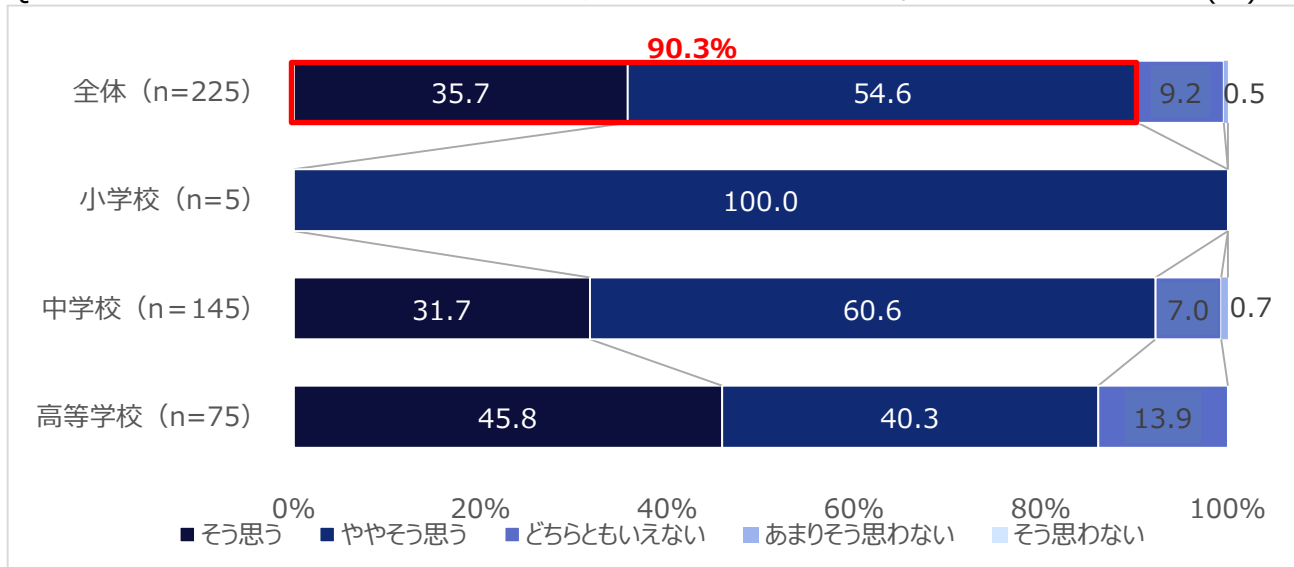
【グラフ 2】

Q. コンタクトレンズの不具合を訴えて保健室に来室する生徒がいる。(%)



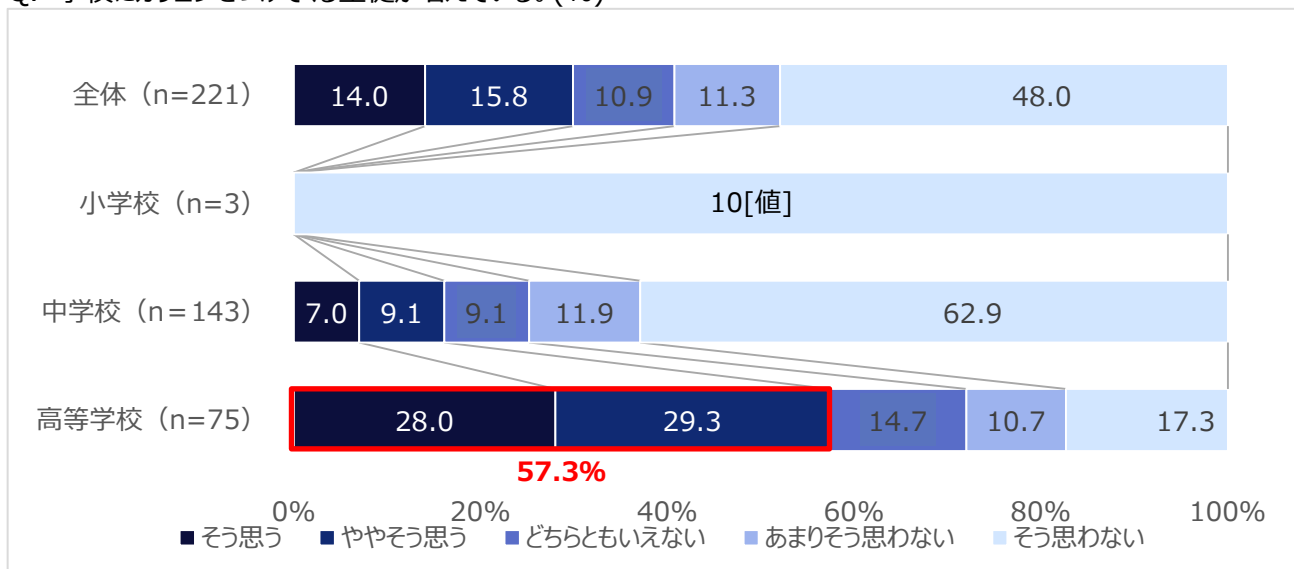
【グラフ3】

Q. コンタクトレンズの安全性に関し、充実した指導教材があれば生徒に対して積極的な指導をしていきたい。(%)



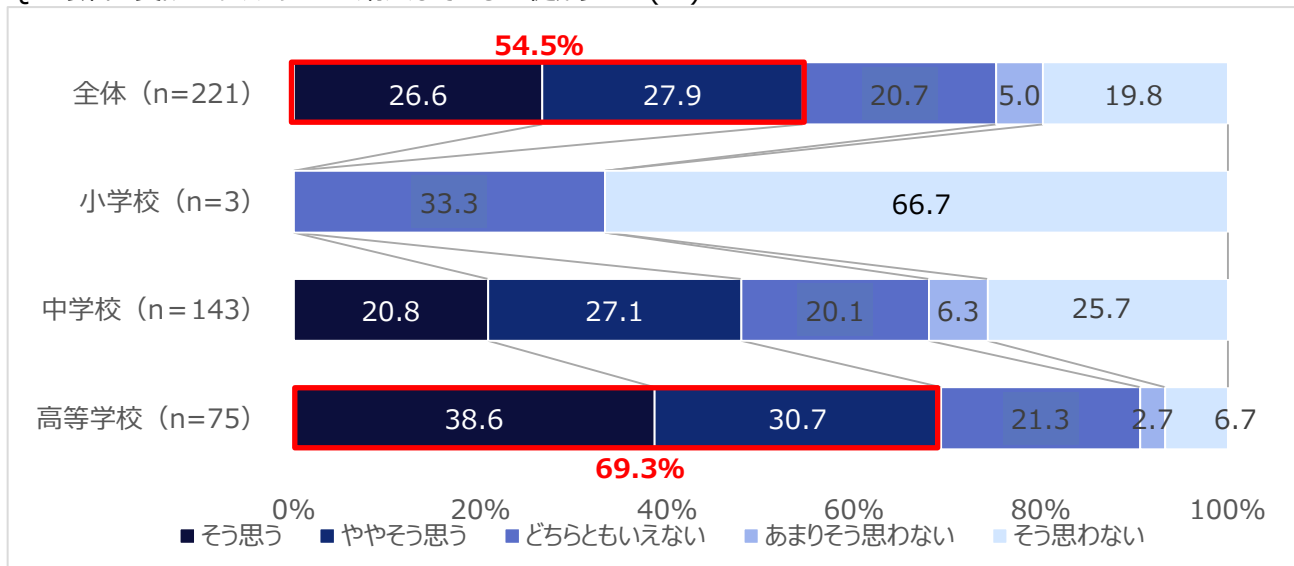
【グラフ4】

Q. 学校にカラコンをつけてくる生徒が増えている。(%)

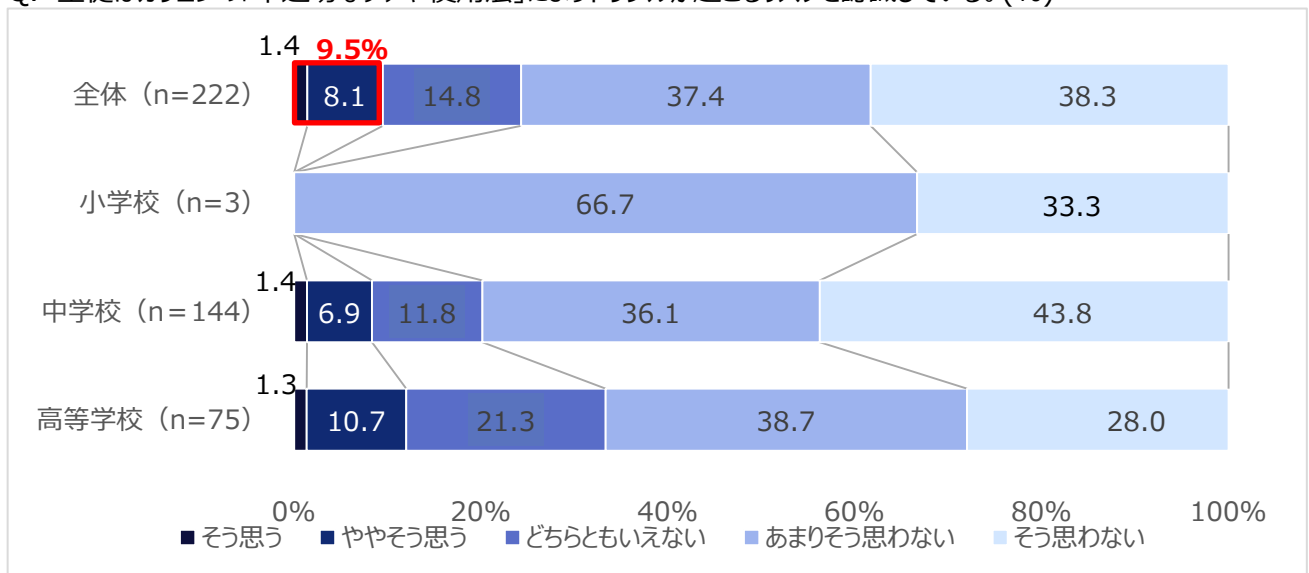


【グラフ5】

Q. 眼科を受診せず、カラコンを購入している生徒が多い。(%)

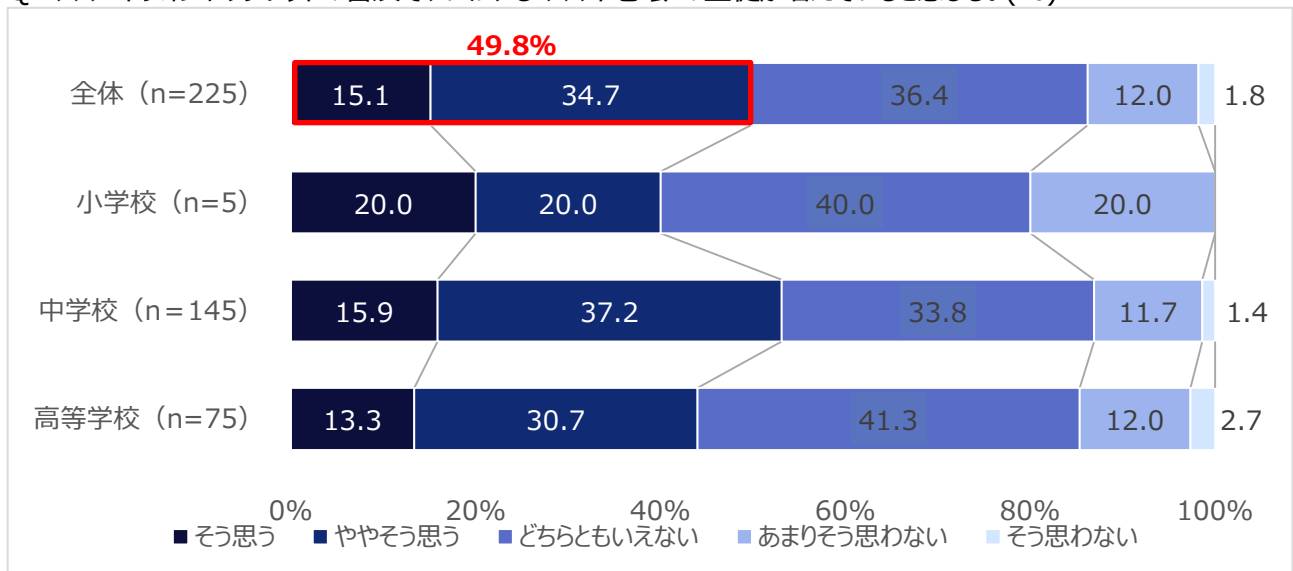


Q. 生徒はカラコンの「不適切なケアや使用法」によりトラブルが起こるリスクを認識している。(%)



【グラフ7】

Q. スマートフォンやタブレットの普及で、いわゆる“スマホ老眼”の生徒が増えていると感じる。(%)



【グラフ8】

Q. 目の乾きやドライアイと思われるトラブルを訴えて保健室に来室する生徒がいる。(%)

